

## 3 宿根草「モナルダ」の育苗法と電照促成栽培

## ねらいと成果

花壇苗の種子系品目は、大規模産地の台頭などにより低価格化が進んでいる。このため比較的経営規模の小さい本県では、栄養系の新品目導入により経営の多角化を図ろうとしている。しかし、栄養系品目は栽培法が確立していないものが多く、有望品目について栽培特性の解明が求められている。そこでハーブの一種ベルガモットとして知られ、切り花としての利用も可能なモナルダについて、挿し穂を効率的に利用するための冷蔵貯蔵と、挿し芽苗を用いた電照による促成栽培を検討した。

その結果、7～8月挿し用の挿し穂は5℃で5～6週間程度の貯蔵が比較的高い発根率を維持し、穂の劣化も少なく実用的であった。

3月からの13℃加温栽培で、電照により2～3週間開花が促進され、花茎数が増加した。

## 内容

ガラス室内の親株（ポット苗）から採った挿し穂を5℃で貯蔵したところ、5週間以上の冷蔵では発根率がやや低下するが、8週間後でも70%程度の発根率を維持していた（表1）。発根数は冷蔵によりやや増加する傾向がみられ、8週間の貯蔵で特に多くなった。冷蔵期間が長くなると葉に褐変が生じ、8週間後にはかなり進行した。

7月～8月上旬に挿し芽しガラス室内で育苗した12cmポット苗を用いて、3月5日から13℃加温、夜間（22：00～2：00）電照して電照効果を調査し

た。ピンチはしなかった。

品種により開花の早晩があったが、用いた4品種とも電照により開花が早くなった（表2）。促進効果が最も大きかった品種は「ドクターチャーム」の23日で、小さかった品種は「スノークイーン」の16日であった。

草丈は電照による影響がみられず、いずれの品種も1m程度と高くなったが、無支柱でもほとんど倒れなかった。株径はやや大きくなった。

花茎数は品種間差が大きかった。電照により1品種を除いて明らかに増加がみとめられ、特に「ケンブリッジスカーレット」と「ビューティオブコムハム」では効果が高く、有望と考えられた。

## 今後の方針

長期貯蔵での発根率の改善のため、発根剤の利用を検討する。また、本試験で用いた品種は草丈が高くなり、花付きのポット苗として扱うには草姿コントロールが必要である。今後は草丈の抑制法や矮性品種の利用を検討する。

岩井 豊通（淡路農技・農業部）

表1 モナルダの挿し穂の冷蔵期間が発根に及ぼす影響

	冷蔵期間				
	なし	2週間	5週間	6週間	8週間
発根率 (%)	90	100	85	70	70
発根数	4.5	7.2	8.7	6.9	12.1

品種「スノークイーン」、7月3日採穂  
発根調査は挿し芽3週間後におこなった

表2 電照がモナルダの生育開花に及ぼす影響

品種	対照区				電照区			
	平均開花日	草丈	株径	花茎数	平均開花日	草丈	株径	花茎数
ケンブリッジスカーレット	6月3日	104cm	36cm	1.6	5月16日	106cm	38cm	3.8
スノークイーン	6月4日	118	34	4.5	5月19日	116	37	5.8
ドクターチャーム	6月13日	120	36	4.2	5月21日	112	41	4.3
ビューティオブコムハム	5月28日	97	35	2.8	5月9日	97	46	5.3